

---

# 未来ノ軌跡

紫音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

未来ノ軌跡

### 【Zコード】

N1073X

### 【作者名】

紫音

### 【あらすじ】

警告！

この扉を開くと貴方は帰れないかも知れない

逝きますか？逝きませんか？

この物語は主人公最強物です。苦手な人は今すぐ回れ右！  
いや、左でもOKですよ？

まあとりあえずそこのちょっと存在が薄そうな君ー見てつてよ、見  
ていこうよ！

ん？ストーリーが分からなって？気にするな少年よ。この精霊の  
ミーシャ様に任せていたら後悔しないよつて・・・ちょっとシルク、  
耳引っ張んないでー。助けてママーン！

## 終わりのトキ

『 ここは何処だ? 』

『 僕は誰だ? 』

『 暗い・・・くらぐ・・・クライ・・・ 』

暗い闇の中に立ち尽くしている少年とその周りを囲むかのように見  
守る紅、蒼、緑、茶の光を纏つた四人の女性。

その女性達が口を開くが何を言つてゐるのかわからない。  
遠くで鳴つてゐる大きな音と共にその世界は崩壊していく。少年は  
その女性達が消えるのを見つめ、目を閉じた。

目を覚ますとそこは先ほどの暗い世界とは売つて変わり白い天井、  
窓から差し込む朝の日差し。

少年、麻野雄一の部屋であった。

「 またあの夢だ... 」

幼い頃に良く見ていた夢を最近毎日のように見たり呆れ、  
首筋を左手でかく雄一。

何故、高校2年にもなつた今この夢を再び見るようになつたのだろう  
と疑問に感じ悩んでいると階段の下から女性らしげに甲高い声で声  
を張り上げる一人の女性。

「 雄一早くしないと遅刻するわよ? 」

「わかつてゐよ、姉貴」

雄一は、自分の姉、麻野凜に同じく声を張り上げ返事をし、直ぐ様学校に向かうための用意を始めるのであった。

「早くしなさいって言つてゐるでしょうが！」

用意が遅かったのか、部屋に乱入してくる姉。雄一は直ぐ様逃げようとするが、その方向には既に先回りした姉が回り込んでおり、朝から痛め付けられた。

これが麻野雄一の日常であつた。

「あんたが遅いから遅刻するじゃないの」

先に行けば良かつただろうと心の奥底で呟きながら姉の後ろを走つて行く雄一。

その瞬間、雄一はその後ろから背筋が凍るよつた冷たい視線を感じ振り向くが誰もいなかつた。

「…………」

姉がなにせりひ遠くで焦つたよつて叫んでくる。

再び走りだそうとしたその時右側から鳴るクラクションの音。

死んだと確信し田を瞑つたその時前から押され俺の体は飛ばされた。

目を開くとそこには店に突っ込んだトラックと・・・頭から血を流し倒れている姉がいた・・・

「————！」

声にならない叫びをあげ、目から涙を流す。

そんな時、雄一の頭に声が響く。

助けましょか？ その少女を。 その女性を。 その方の未来ヲ。

その言葉を聞き何度も泣きながら頷く。

良いでしょ。 では逝きましょ生と死が散乱する世界へト

そのまま俺は電源が落ちるかのように田の前が暗くなつた。

## 新たなるスタートライン

何だ？眩しい・・・

目を開くとそこには何やら見守るような視線を向けている数人の人。  
俺は眩しいので目を擦ろうと・・・擦ろうと・・・  
なんじやこうやああああ・・・

大声で叫ぶと俺の声は産声になつており一人の女性に抱き締められた。

え？ なんで？ ちょっとなんで？ なんで俺赤ん坊になつてんだ！？

あーあーテスト

ん？ また声？ つて姉貴はどうなつたんだ！ 早く戻らないと

テストしてる最中に質問するな！ ちょっとは落ち着きを見せないと  
女の子に持てないぜ？ 雄一君、いや今の君の名は違うか

俺は確信したその時の声の主が元凶だと・・・

「おめでとうございますバルン様にレイン様。」

冷静に物を考えると今の俺は赤ん坊で、今産まれて、そのバルンと  
レインと言つ人が俺の両親らしい。

「ハーシャーひつかひに来なさい」

優しい口調で話す長く美しい翠の髪の女性の後ろから現れた小さな  
・・小さな?つて小さすれだああ!!

ピーターパンに出てくる妖精並みに小さな少女と呼んでいいのか分  
からない女性。

小さこいつて反応が普通だぞ?雄一君

ニヤニヤと覗きこんで来る翠の髪の妖精つてお前が声の主か!?

つむ。そしてお前の名付け親に任命された妖精ミーラー・シヤさんだ。  
喜べ、そして泣きながら俺に忠誠を誓つのだ

頭の中で某悪役みたいな高笑いをするミーラー・シヤ。

「さて、バルン殿。」この子の名を決めたのだが

「つむ、聞かせて貰おつ。我の、我々の息子の名を」

えつヒリーシヤさん普通のでお願いしますね?

却下ありますよ雄一参謀長官殿

ニヤニヤしながら名前を告げてミーラー・シヤ。

「」の子名はシルロード=クライシス。このクライシス家に未来へ  
と続く橋を作る者です

こうして、俺の新たなるスタートは始まった。

## 新たなるスタートライン（後書き）

何やうもつお氣に入り登録されてるみたいで皆わんには感謝です。  
下手は下手なりに頑張つていきたいので応援してくださいなあ

## 悲劇の後

『悪魔の子……』

火で燃える家。怯えて泣きわめく俺の妹アーニャ、震えながら妹を庇うように抱き締め叫ぶ母、その母の目に映るは紅く光る目をした俺自身。

ふと後ろを振り返ると派手に散った人だったと思われる肉片の数々。俺は正気に戻りただただ悲鳴のような叫び声をあげた

俺は汗まみれで布団から飛び起きた。

あれから15年の月日が流れた……

窃盗、殺害、生きるために何でもやった。

今日も生きるための生活費を求めスラム街にある部屋を俺は後にした。

アルランド王国大通りPM18:28

「らつしゃい、らつしゃい」

今日もこの町は活気にあふれ、人通りも多い。

俺の穴場だった。

横を素通りする女性剣士。

よし、今日の獲物はコイツにするか。そう思い、相手にぶつかり、その隙に相手の腰に手を伸ばす。

失敗するはずもなかつた。今まで10年も磨きあげたスリのテクニックだ。しかし、相手の腰には先ほどまであつたはずの巾着がなくなつており、自分の懷に風が通りすぎた。

「つっ！」

不安に思い直ぐ様懷に入れていた自分の巾着を探す。

ない・・・

直ぐ様振り返ると少し先で立ち止まつてゐる美しい金色の長髪を風に靡かせてゐる女性剣士を眺めた。

「ついてこい・・・」

女性剣士は振り返ることなく歩いて行く。

俺は気づかれたとも、逃げなくてはとも思つた。しかし、その女性剣士の綺麗な金色の髪に見いられたのか気付くと相手の後ろをついていつていた。

アルランド王国大通り（甘味屋）PM17:10

俺はなぜか女性剣士と共に餡蜜を食べていた。  
なぜだ、なぜこうなつた。

普通なら騎士などに突き出すだろ？と疑問に感じながらも警戒しつ餡蜜を食べる。

すると女性剣士が口を開いた。

「筋は良いが今回は相手が悪かつたな」

「ヤリと笑いながら俺の巾着であるうつ物を懐から取り出す。

「何が目的だ・・・」

「目的など無い、ただの気まぐれだ。」

「さつさと騎士にでも売り渡せば良いだろ？俺は失敗したんだ。」

投げやりにいい放つ俺に女性剣士は、ほうっと笑い俺に選択肢を与えた。

「面白い事を思い付いた。貴様、騎士に売り渡されるか、私と共に来て冒険者になるか決める。

あつ、まだ自己紹介してなかつたな。私はルルフェット、ルルフェット＝オズウェル。ハーフエルフだ。」

「自己紹介なんか・・・シルクでいい。」

ルルフェットは名前を名乗つたのを共に来る事の同意と確認すると俺の手を引き、代金を払い甘味屋を後にした。  
ちなみに俺の巾着から・・・

ルルフォット曰く冒険者になるためには冒険者ギルドと書つ所に登録しないと行けないらしい。そのため、俺たちは今、冒険者ギルドの前までやってきた。

「こんばんは、冒険者ギルドによつこね。本田担当をせて頃くジャンヌと申します。」

「今日はコイツの登録をお願いしたい。」

ルルフォットはそう言つと後ろでキヨロキヨロと辺りを見渡して、俺をジャンヌの前に突きだした。

「なるほど、新規ご登録の方ですね。ではこちら

ジャンヌは自分の後ろにあるドアを開け俺を中に入るよつて手招きをした。

俺は誘導に従い中に入ると中にある機械に驚きを隠せずにいた。そこにはつたのは人が一人入れるくらいの大きな一つのカプセルと大きな機械。白い部屋にはこれでもかと言つくらいの明るい照明だった。

「では、こちらの中にお入りください。」

そう言つとジャンヌは機械の前にある椅子に座り何やら作業を行つ。説明も無しだつた為、頭に?を沢山浮かベカプセルの中に入る。するとカプセルの中に蒼く半透明な液体が入つて行く。

「つづー？」

びっくりし、息を止めるも一分も持たず液体を飲み込んでしまい、軽いパニック状態に陥るも息が出来る事にびっくりし、目を瞑る。

「では、始めます。」

ジャンヌはそのまま機械をいじつていいく。

蒼い液体が紅く変わり機械の画面にはHラーの文字が並ぶ。

『えつ、こんな事あるはずが』

私は驚きを隠せず急いでキーボードを打ち込んでいく。

すると、Hラーの文字の変わりにカタストロフィの文字が浮かび画面が黒くなりカプセルが開く。

機械からは黒い煙が立ち上ぼり、カードが機械から出てきた。

「なんだつたの、いつたい・・・」

「うひ・・・」

口から胃まで入っていた液体を吐き、咳き込みながらカプセルから出る。

「うひ、うん。一応出来たわよ?..」

そう良いながらジャンヌは俺の手に一枚のカードを手渡した。

名前：シルロード＝クライシス

発行者：ジャンヌ＝シャーロット

称号：無し

L V . 1

STR : D

DEX : C

VIT : D

AGI : C

INT : Error

MND : Error

「Hラー？」

「訳わかんない・・・Hラーってこんなのは初めてよ」

頭を抱え悩むジャンヌ。悩んでも分からないと思つたのかため息を漏らし、部屋を俺と退出した。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1073x/>

---

未来ノ軌跡

2011年11月11日12時33分発行